



PDF_DIFF_Reporter の使い方

① ファイルを用意する

任意の場所のフォルダ (ex : sampleフォルダの中のbeforeフォルダとAfterフォルダ内のPDF) に比較するファイルを用意してください。

名前	変更日	サイズ	種類
after	今日 11:00	--	フォルダ
sample_2.pdf	今日 9:49	2.3 MB	PDF書類
before	今日 10:59	--	フォルダ
sample_1.pdf	今日 9:39	2.3 MB	PDF書類
out	今日 10:58	--	フォルダ

対応するファイルはPDF(pdf)
イラストレーター (.ai※pdf互換で保存したものアートボードで大きさを判定)
画像ファイル(jpg / jpeg / tiff / tif / png)
サイズ違いも処理することはできますが、天地中央合わせでのCMYK Diffモードのみとなります。

差分をかけるファイル、またはフォルダを選択。複数のファイルを一気に比較する場合はフォルダを選択してください。バーにドラッグしても設定できます。

② アプリを起動する

改訂前 (Before)

改訂後 (After)

出力フォルダ

オプション

DPI: 150 200 300 色差しきい値 (1~20%) : 12%

判定モード: max

表示モード

Diff 単色・赤 (地=K30) Diff 単色・黒 (地=K30) CMYK Diff (改訂前=青/改訂後=赤) 濃度 (%) 60%

出力構成

差分のみ 差分+改訂後 差分+改訂前後

出力時、差分のみで出力するか、修正前後のファイルをページ単位で挟み込むか選択することができる

変更箇所の囲み野

色: なし 赤 黒 青 線幅(pt): 1 2 3

最小面積(px²): 200 バディング(px): 6 膨張(px): 4 近接マージ(px): 8

その他

変更なしページを出力しない 全ペアを最後に1本へ統合 テキスト索引 (黒=削除/赤=追加) を先頭に入れる

出力ファイル名

パターン: {after}_diff 日時を付与 (YYYYMMDD+HHMMSS)

使えるトークン: {before} {after} {} {date} {time} {datetime}

実行 出力フォルダを開く

設定を保存... 設定を読み込み...

レンダラー: PDFium (pypdfium2)

実行 出力フォルダを開く

設定を保存... 設定を読み込み...

設定を保存の下のグレーのバーは進捗具合がわかります。下の白地ボックスはログが出ます。

pdfファイルから処理をする際の画像への書き出し解像度と差分の色差を比較するしきい値を設定できます。

Diff単色・赤/黒
比較差異の部分が赤/黒の強調で表示される。差異の無い部分はK30程度の濃度で表示される。
CMYK Diff単色 (改訂前=青 改訂後=赤)
修正前が青、修正後が赤で表示され、紺色のところは差異なしとなる。これは赤青スレで判断する。
濃度
出力されるファイルの濃度を設定することができる

全ペアを最後に1本へ統合
複数のファイルがあった場合、1つのファイルに統合して出力
テキスト索引
テキストの変更箇所をページ単位で読み取り、先頭にインデックス風に表示する。ただしあまり精度はよろしくないで、飾りと思ってください

出力ファイル名を変更することができます
デフォルトでは改訂後(After)のファイル名に_diffになります。
日時を付与にチェックが入っていると、日時がファイル名の後に付きます。※上書き防止

複数の設定を使い分ける場合、設定を保存して読み込むことができます。

設定の保存

Save As: PDF_DIFF_SETTINGS.json

File

Documents

Format: JSON (.json)

Cancel Save

読み込みもできます。

max: 最大値判定モード
ページ全体の差分のうち 最も大きな変化量 (最大ピクセル差) を基準に判定します。少しでも強い差分があれば「差分あり」と判断するため、厳しめの検出になります。細かな変更 (小さな色ムラや点の追加など) も検出可能。ただし、微細なノイズでも検出されやすいので「過検出」になることもあります。

luma: 輝度差判定モード
RGB値ではなく 明るさ (輝度: Luminance) を基準に差分を判定します。色のわずかな違いは無視して、明るさの変化だけに着目。デザイン全体のレイアウト変更や濃淡の調整など、見た目の印象に関わる差を検出するのに有効。カラーバランスの微調整などは検出されにくいので、ノイズが少なく安定した比較が可能。

実行 / 出力フォルダを開く
設定が終了したら実行ボタンをクリック
比較が終了して出力フォルダにpdfが作成されると

完了

比較作業が終了しました

出力フォルダを開く 閉じる

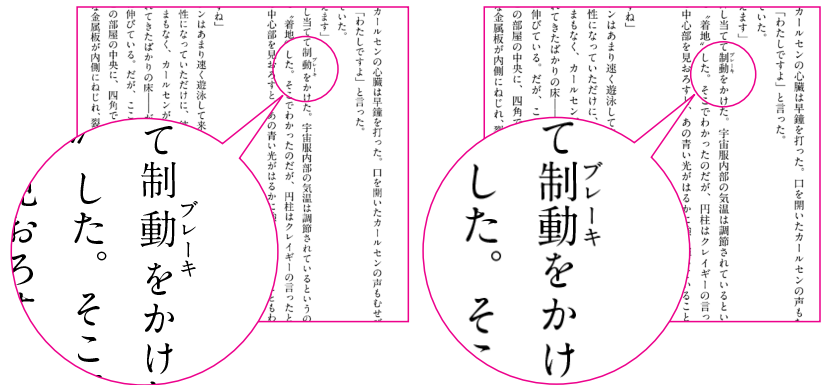
ダイアログが表示されます

③処理

テキストのルビを修正してPDF書き出し。

(左図参照：左のルビ設定を右の形に修正)

Pdf_Diff_Reporterを起動して差分を確認しましょう。



④結果

名前	変更日	サイズ	種類
after	今日 11:00	--	フォルダ
sample_2.pdf	今日 9:49	2.3 MB	PDF書類
before	今日 10:59	--	フォルダ
sample_1.pdf	今日 9:39	2.3 MB	PDF書類
out	今日 11:03	--	フォルダ
sample_2_diff_20250926-110252.pdf	今日 11:03	0バイト	PDF書類

sample_2_diff_20250926-110252.pdfが作成された

設定：
表示モード：Diff単色・赤
出力構成：差分+改定後
変更箇所の囲み罫：色・青/太さ1px
他はデフォルト

今回はルビの前後の空きの関係で反
応範囲が大きくなっているのですが、
これによると前後の行には影響は出て
いないことがわかります。

Diff単色・黒は現在赤いところが黒
になるだけです。

改訂後
うな気分だった。床にいた穴の縁は四分の一マイル下方にあり、途方もなく大きな長方形のその穴の全貌が見てとれた。まるで、山にかこまれた雲の中の谷間のようだ。ガイガー計測器はこの時点にはすでに危険ラインを突破していたが、宇宙服が絶縁してくれているので、もう少しばかりは安全だろう。
一同が突入しつづける穴は長さが約一マイル、幅は四分の一マイルであった。壁面には、さっきの表側の部屋と同じ模様が一面に描かれている。光は床から、この空間の中央に立つ巨大円柱から来ているようだ。マーチソンが「一体全体ありや何だい。記念塔かい」と言うのが聞えた。するとクレイギーが「ガラスの塔だよ」と言った。カールセンは、床にぶつかる勢いを弱めるために両手を伸ばし、落下傘兵のようにでんぐり返しを打ってから、百メートルほどバウンドした。直立することに成功した彼は、透明な円柱を支えている台の基部に自分が居るのに気づいた。
この宇宙船の内部にあるほとんどのものと同じように、この円柱も遠方から見たときより大きかった。カールセンは、その直後が五十メートルをくだるまいと推定した。円柱の内部には、とてつもなく大きいおぼろな物体が幾つも宙づりになっている。燦々光の中でそれは黒い蛸のように見えた。カールセンは遊泳上昇して、蛸のようなものの真向かいまで昇り、サーチライトの光線をそれらに当てた。まばゆい光の中で彼は、それが黒くはなくてオレンジ色であることを見てとれた。こうして接近して調べてみると、それは蛸というよりも、片一方でつなぎ合わされた菌類の蔓のように見えた。
すぐ近くでアイヴズが言った。「あれはどう思います」
アイヴズが何を考えているか、カールセンにもわかった。「あれがこの宇宙船を造ったんだとは思わないね」
マーチソンが宇宙服のヘルメットのガラス面を円柱に押しつけた。
「あれ、何だと思えます。植物でしょうかね。それとも、鳥賊の一種なのか」
「どっちでもないだろうな。まったく異質な生命体なのかもしれないよ」
マーチソンが「おお、神様」と言った。その声にこめられていた恐怖の念にカールセンの心臓は早鐘を打った。口を開いたカールセンの声もむせび声だった。
鳥賊のような形をした物体のかげで何かが動いているのだ。クレイギーの声が「わたしです」と言った。
「何をやらしているんだ、そんな所で」。ショックのせいでカールセンは怒っていた。
「この筒の中に入っているんですよ。これはどうですか。下のほうに何かが見えます」
用心ぶかしくカールセンは上方に遊泳し、手袋をはめた手を円柱のガラス面に押し当てて制動をかけた。宇宙服内部の気圧は調節されているというのに、だくだく汗が出る。カールセンは円柱のつべんを越え、空中で身体をひねって、円柱上面のへりからうじて、着地した。そこであつたのだが、円柱はクレイギーの言ったとおりがらんだつた。鳥賊のような生物が入っている円柱のガラス壁は三メートル強の厚さしかないのだ。円柱の中心部を見おろすと、あの青い光はるかに強く輝いていることもわかった。床の下からその光は発しているのだ。
鳥賊のような形をした物体のかげで何かが動いているのだ。クレイギーの声が「わたしです」と言った。
「何をやらしているんだ、そんな所で」。ショックのせいでカールセンは怒っていた。
「この筒の中に入っているんですよ。これはどうですか。下のほうに何かが見えます」
用心ぶかしくカールセンは上方に遊泳し、手袋をはめた手を円柱のガラス面に押し当てて制動をかけた。宇宙服内部の気圧は調節されているというのに、だくだく汗が出る。カールセンは円柱のつべんを越え、空中で身体をひねって、円柱上面のへりからうじて、着地した。そこであつたのだが、円柱はクレイギーの言ったとおりがらんだつた。鳥賊のような生物が入っている円柱のガラス壁は三メートル強の厚さしかないのだ。円柱の中心部を見おろすと、あの青い光はるかに強く輝いていることもわかった。床の下からその光は発しているのだ。

別のモードも実行してみましょう。
同じファイルを今度は

設定：
表示モード：CMYK濃度100%
出力構成：差分
他はデフォルト

で処理してみました。

改訂後

「この筒の中に入ってるんですよ。これはがらんです。下の方に何かが見えます」

用心ぶかくカールセンは上方に遊泳し、手袋をはめた手を円柱のガラス面に押し当てて制動をかけた。宇宙服内部の気温は調節されているというのに、だくだく汗が出る。カールセンは円柱のてっぺんを越え、空中で身体をひねって、円柱上面のへりからうじて着地した。そこでわかったのだが、円柱はクレイギーの言ったとおりがらんだ。鳥賊のような生物が入っている円柱のガラス壁は三メートル強の厚さしかないのだ。円柱の中心部を見おろすと、あの青い光はるかに強く輝いていることもわかった。床の下からその光は発して

うな気分だった。床にいた穴の縁は四分の一マイル下方にあり、途方もなく大きな長方形のその穴の全貌が見てとれた。まるで、山にかこまれた雲の中の谷間のようだ。ガイガー計測器はこの時点にはすでに危険ラインを突破していたが、宇宙服が絶縁してくれているので、もう少しはらくは安全だろう。

一同が突入しつつある穴は長さが約一マイル、幅は四分の一マイルであった。壁面には、さっきの表側の部屋と同じ模様が一面に描かれている。光は床から、この空間の中央に立つ巨大円柱から来ているようだ。マーチソンが「一体全体ありや何だい。記念塔かい」と言うのが聞えた。するとクレイギーが「ガラスの塔だよ」と言った。カールセンは、床にぶつかる勢いを弱めるために両手を伸ばし、落下傘兵のようにでんぐり返しを打ってから、百メートルほどバウンドした。直立することに成功した彼は、透明な円柱を支えている台の基底部に自分が居るのに気づいた。

この宇宙船の内部にあるほとんどのものと同じように、この円柱も遠方から見るときより大きかった。カールセンは、その直後が五十メートルをくだるまいと推定した。円柱の内部には、とてつもなく大きいおぼろな物体が幾つも宙づりになつていて、燐光の中でそれは黒い蛸のように見えた。カールセンは遊泳上昇して、蛸のようなものの真向かいまで昇り、サーチライトの光線とそれに当たった、まばゆい光の中で彼は、それが黒くはなくてオレンジ色であることを見てとった。こうして接近して調べてみると、それは蛸というよりも、片一方でつなぎ合わされた菌類の蔓のように見えた。

すぐ近くでアイヴズが言った。「あれはどう思います」

アイヴズが何を考えているか、カールセンにもわかった。「あれがこの宇宙船を造ったんだとは思わないね」

マーチソンが宇宙服のヘルメットのガラス面を円柱に押しつけた。

「あれ、何だと思います。植物でしょうかね。それとも、鳥賊の一種なのか」

「どっちでもないだろうな。まったく異質な生命体なのかもしれないよ」

マーチソンが「おお、神様！」と言った。その声にこめられていた恐怖の念にカールセンの心臓は早鐘を打った。口を開いたカールセンの声もむせび声だった。

鳥賊のような形をした物体のかけで何かが動いているのだ。クレイギーの声が「わたしですよ」と言った。

「何をやらしているんだ、そんな所で」ショックのせいでカールセンは怒っていた。

「この筒の中に入ってるんですよ。これはがらんです。下の方に何かが見えます」

用心ぶかくカールセンは上方に遊泳し、手袋をはめた手を円柱のガラス面に押し当てて制動をかけた。宇宙服内部の気温は調節されているというのに、だくだく汗が出る。カールセンは円柱のてっぺんを越え、空中で身体をひねって、円柱上面のへりからうじて着地した。そこでわかったのだが、円柱はクレイギーの言ったとおりがらんだ。鳥賊のような生物が入っている円柱のガラス壁は三メートル強の厚さしかないのだ。円柱の中心部を見おろすと、あの青い光はるかに強く輝いていることもわかった。床の下からその光は発しているのだ。

「この筒の中に入ってるんですよ。これはがらんです。下の方に何かが見えます」

用心ぶかくカールセンは上方に遊泳し、手袋をはめた手を円柱のガラス面に押し当てて制動をかけた。宇宙服内部の気温は調節されているというのに、だくだく汗が出る。カールセンは円柱のてっぺんを越え、空中で身体をひねって、円柱上面のへりからうじて着地した。そこでわかったのだが、円柱はクレイギーの言ったとおりがらんだ。鳥賊のような生物が入っている円柱のガラス壁は三メートル強の厚さしかないのだ。円柱の中心部を見おろすと、あの青い光はるかに強く輝いていることもわかった。床の下からその光は発して

Windows10 でファイルのダウンロードがセキュリティによってできない場合、主に「Windows SmartScreen」機能が原因であり、安全なファイルであることが確認できれば、メッセージに表示される「保持する」などのボタンをクリックしてダウンロードを続行できます。または、Windows セキュリティの「リアルタイム保護」を一時的にオフにしたり、サードパーティのセキュリティソフトの機能を無効にしたりすることも有効な対処法です。

Microsoft Edge の SmartScreen 機能による対処法

- 安全なファイルであると判断できる場合は、メッセージ内に表示される「保持する」または「保存」ボタンをクリックしてダウンロードを続行します。
- 安全性が確認できないファイルや提供元が不明な場合は、ダウンロードを中止し、削除することが推奨されます。

Windows セキュリティの設定変更による対処法

- 1 スタートメニューから「Windows セキュリティ」を開きます。
- 2 「ウイルスと脅威の防止」を選択します。
- 3 「ウイルスと脅威の防止の設定」の下にある「設定の管理」をクリックします。
- 4 「リアルタイム保護」のスイッチを一時的に「オフ」にします。
- 5 これでダウンロードができるようになったら、安全なファイルのみダウンロードするようにし、ダウンロードが完了したら「リアルタイム保護」をオンに戻します。

■ ソフトウェア利用規約

第1条（適用）

本規約は、[ソフト名]（以下「本ソフト」）の利用条件を定めるものです。
利用者は本ソフトをインストールまたは使用した時点で、本規約に同意したものとみなします。

第2条（権利帰属）

本ソフトに含まれるコードの一部は AI（ChatGPT, Gemini等）によって生成されたものを含みます。
本ソフトの著作権は開発者である [販売者名／屋号] に帰属します。
利用者は本ソフトを非独占的に利用する権利を有します。

第3条（禁止事項）

利用者は以下の行為をしてはなりません。
本ソフトを不正な目的で使用する
本ソフトを改変・リバースエンジニアリングすること
第三者の権利を侵害する形での利用

第4条（外部ライブラリ）

本ソフトは外部ライブラリを利用する場合があります。
利用者は各ライブラリのライセンス条件を遵守するものとします。

第5条（免責事項）

本ソフトは「現状有姿」で提供され、正確性・完全性・有用性について一切保証しません。
開発者は、本ソフトの利用により生じた損害について、一切の責任を負いません。
AI生成コードの性質上、予期しない動作・誤判定が発生する可能性があります。利用者自身の責任においてご利用ください。

第6条（利用範囲）

利用者は、本ソフトを個人または法人において自由に利用できます。ただし、再配布や販売を行う場合は、開発者の事前承諾を要します。

第7条（準拠法）

本規約は、日本法に準拠します。

PDF Diff Reporter

Copyright (c) 2025 [Your Name / Company]

All rights reserved.

本ソフトウェアは、株式会社シーズ（または開発者名をここに記載）が著作権を有します。

本ソフトウェアは有償ライセンスのもとで提供され、再配布・改変・逆コンパイルは禁止されます。

外部ライブラリについて

本ソフトウェアは以下のオープンソースライブラリを利用しています。

それぞれのライブラリは対応するライセンスに基づき、商用利用可能です。

1. Pillow (Python Imaging Library)

License: MIT License

<https://python-pillow.org/>

2. NumPy

License: BSD License

<https://numpy.org/>

3. PyPDF2

License: BSD License

<https://github.com/py-pdf/PyPDF2>

4. pypdfium2

License: BSD 3-Clause License

<https://github.com/pypdfium2-team/pypdfium2>

5. ReportLab

License: BSD-like Open Source License

<https://www.reportlab.com/>

6. tkinterdnd2

License: MIT License

<https://github.com/pmgagne/tkinterdnd2>

7. Requests

License: Apache License 2.0

<https://requests.readthedocs.io/>

免責事項

本ソフトウェアは「現状有姿 (AS IS)」で提供され、明示または黙示を問わず、正確性・完全性・特定目的への適合性に関するいかなる保証も行いません。

本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害についても、開発者は一切の責任を負いません。

準拠法

本ライセンスは日本法に準拠し、解釈されます。